

# ほ ほ え み

〒376-0024 群馬県桐生市織姫町6番3号  
TEL 0277-44-7171(代) FAX 0277-44-7170  
URL <http://www.kosei-hospital.kiryu.gunma.jp/>

桐生厚生総合病院

(編集 院外広報編集委員会)

## ICT (感染対策チーム)

ICTリーダー (小児科診療部長)

くわしままこと  
桑島 信

ICTは、インфекションコントロールチームの略で感染対策チームです。

感染症は、細菌・ウイルスなどの病原体が人体に悪影響を与えている状態です。人体には微生物が体の中に入ってこないよう皮膚や粘膜のバリアーがあり、侵入してきた微生物と戦う免疫の力があります。一方、腸の中や皮膚などには細菌が数多く住みついていて、人体はこれらの細菌を利用して生きています。

「病院感染」とは患者さんが入院してから数日後以降に起こった、本来の病気でない感染症をいいます。院内で感染症が起こった場合には、他の人から移ってくる場合と本来その人が持っていた病原体が増殖して悪影響を及ぼす場合とがあります。



[感染対策チーム]

医療の進歩による新技術のおかげで、今まで治らなかった病気が治ったり、苦痛が軽減したり、生活の質が上がったりしてきました。しかし、例えば癌の治療などで使う抗癌剤には、免疫の力を落とす作用や粘膜を傷つけて体内に病原体が入りやすくなる作用があり、効果を十分に得るために感染症の危険をある程度想定した治療を行うことで治療成績が向上してきました。また、手術やカテーテルの挿入など皮膚・粘膜に傷を付ける行為は感染症を発生しやすくしますが、予防や発生した場合の治療を行うことで、危険よりも利益が大きい場合に実施されています。つまり、今日の医療行為には常に感染症の危険がつきまといえます。抵抗力の弱い患者さんには感染力の弱い微生物も感染の原因となることがあり、また抗生物質が使われた結果、薬が効きにくい耐性菌も多くなります。

病院感染をまったくなくすことは不可能ですが、ひとたび起これば患者さんの苦痛が増し、命にかかわる

### 《基本理念》

向学心と優しさに満ちた医療

### 《基本方針》

1. 私たちは、患者さんの人権を守り、患者さん中心の安全で優しさに満ちた医療を行うよう努めます。
2. 私たちは、日々研鑽し、患者さんに良質で高度の医療技術と医療サービスを提供するよう努めます。
3. 私たちは、地域中核病院として、他の医療機関との連携を推進し、地域医療のニーズに応えるよう努めます。
4. 私たちは、地域に密着した医療を提供し、地域住民の厚い信頼を得るよう努めます。

こともあり、入院期間も長くなるわけですから、これをできるだけ減らすことは極めて重要です。

病院感染防止対策は、個々の医療従事者ごとに対策を行うのではなく、医療施設全体として対策に取り組むことが必要です。院内の感染対策組織として、病院長を委員長とする病院感染対策委員会が意思決定機関であり、また各病棟にはリンクナースと呼ばれる感染対策担当の看護師がおります。この間で感染対策の立案・実行を担当するのがICTです。

構成員は、認定感染制御担当医師4名、看護師5名、臨床検査技師1名、薬剤師1名、事務職員3名です。内科・外科といった各診療科単位でなく、組織横断的なチーム医療の先駆けとして2002年8月から活動を開始しています。

ICTの業務は、病院感染を減らすために、その実態を把握し、対策を考え、実行することです。

病院感染がどのくらい起こっているのかを正確に把握するため、細菌検査室で検出される病原体の情報を確認、周知することと、中心静脈カテーテルを入れた患者さんや手術を受けた患者さんなど、特定の患者さんの感染症を調査します。

対策としては、基本となる病院の感染対策マニュアルを作成することと、それが実行されているかどうか、月2回各部署を順に見回ることによって確認しています。また、同じ病原体による病院感染が多発したり、抗菌剤が効きにくい耐性菌など注意すべき感染症が発生した場合などには、感染症の拡大を防ぐために、現場で医療行為の際の注意や、患者さんの隔離など具体的な対策を指示します。

感染対策には、手袋やマスクといった消耗品から、器具の洗浄機器の設備など相当な費用が必要であり、厳しい財政の中、無駄をなくすこと、優先順位を決めることに苦労しています。

病院感染の多くは人の手を介して伝播するため、これを防ぐために最も重要なことは、手指消毒です。職員には徹底するよう指導しており、必要に応じて手袋も使用しますが、医療従事者以外の方もご面会などで病室にお入りになる前、帰る時には、病室入口の速乾性手指消毒剤を使用してください。また、咳が出るとき、インフルエンザの流行時などには、是非マスクの着用にご協力をお願いします。



[速乾性手指消毒剤]



## 病院敷地内禁煙の実施について

呼吸器内科診療部長

あら き たけ ひこ  
荒木 健彦

近年、たばこによる健康被害への社会的認識が高まり、学校・官公庁・レストラン・乗り物など公共施設での全面禁煙や分煙の割合が増加しつつあります。政府も2003年に施行した健康増進法において、病院などの管理者に対し、受動喫煙の防止に必要な措置をとるよう努力義務を課しています(図1)。

当院も2004年9月から館内禁煙を始めましたが、地域の住民の健康を守るという当院の使命から考えても、それを一歩進めて本年6月1日から「敷地内全面禁煙」を実施することにしました。

たばこが健康に悪影響を及ぼすことは周知の事実と思われます。現在世界では8秒に1人がたばこが原因で死亡しており、また、日本国内でのたばこ関連疾患に関係した医療費は年間4兆円にのぼると試算されています。代表的なたばこ関連疾患である肺がんは、2015年には現在の3倍になると予想されています。他にも別名“たばこ病”とも呼ばれる慢性閉塞性肺疾患や虚血性心疾患(急性心筋梗塞など)、脳血管障害(脳梗塞、脳内出血など)などもたばこは引き起こします。

また、たばこのもうひとつの問題点として受動喫煙の害が挙げられます。喫煙者の夫を持つ妻が肺がん死亡するリスクは、非喫煙者の夫を持つ妻の1.91倍となっています。

健康増進法に基づき、昨年10月に群馬県が実施した医療機関における受動喫煙防止対策等に関するア

アンケート調査では、敷地内全面禁煙を施行している病院は4%（図2）、建物内全面禁煙は50%にとどまり、病院における受動喫煙防止対策の遅れが指摘され、今後は病院の禁煙対策を重点的に進めていくべきと結論づけています。

敷地内禁煙をしている施設は最近急増していますが、どの実施施設でもたばこのポイ捨てが増加することが悩みの種になっています。敷地を出てすぐのところに灰皿を設置すれば汚れないし、火事の心配もないと考えがちですが、灰皿があるとどうぞここで喫煙してくださいと喫煙を奨励していると誤解されかねないので、灰皿は置かないほうが良いと考えています。対策として院内の看板や入院案内でお知らせするほか、特に敷地の境界周辺の清掃を強化するのが一番良いようです。たくさん吸殻が捨ててあれば『赤信号、皆で渡れば・・・』となりますが、綺麗に掃除されたところにはなかなか捨てづらようです。また、もし構内や灰皿のないところで喫煙している人を見かけたら、注意するようお願い申し上げます。

本年4月から禁煙治療が保険適応を受けました。これは、たばこをやめられないのは、ニコチン依存症という『病気』だと国が判断したからです。『病気』である以上、病院として放置するわけにもいきません。当院でも7月1日から禁煙外来を始めることになりました。敷地内禁煙の措置については、どうか職員や患者さんのみならず、当院に出入りするすべてのの方々のご理解とご協力をお願い申し上げます。

健康増進法  
第2節受動喫煙の防止

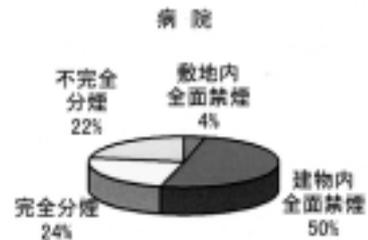


第25条

学校、体育館、病院、観覧場、集会場展示場、百貨店、事務所、官公庁施設飲食店その他の多数のものが利用する施設を管理する者は、これらを利用する者について、受動喫煙（室内またはこれに準ずる環境において、他人のたばこの煙を吸わされることをいう。）を防止するために必要な措置を講ずるように努めなければならない。

【 図 1 】

医療機関における受動喫煙防止対策等に関するアンケート調査結果



【 図 2 】

禁煙外来（内科）

診 療 日：毎週月曜日・午後2時～4時（祝日を除く）・・・事前電話予約制

予約受付：電話（0277-44-7124）にて「禁煙外来予約」とお申し出ください。

：毎日・午後2時～5時まで予約受付（土曜日・日曜日・祝日・年末年始は除く）

◇詳しいことは、0277-44-7130 医事課外来係へお問い合わせください。

病院食・人気メニューと行事食

食養科一同



「ソースかつ丼」

食事は、つらく退屈になりがちな入院生活の中での「数少ない楽しみのひとつだ」とおっしゃる入院患者さんがよくいらっしゃいます。また、病氣やけがに打ち勝つ体力をつけるには、食事を美味しくしっかりと摂る事も大切です。入院患者さんに美味しく召し上がって頂ける様、食養科一同力を合わせて日々食事を作っております。

その中でもソースかつ丼やカレーライスなどは、一般家庭同様、人気のあるメニューとなっております。病院近辺にも数多くの名店があるソースかつ丼は、一説によると群馬県が発祥の地であるといわれ、上州人に愛

されているメニューのひとつです。カレーライスは日本人の一番好きな食べ物の上に挙げられる、子供か

からお年寄りまで幅広い世代に人気のあるメニューです。どちらもいい香りで食欲をそそる高カロリーの食事で、エネルギーをしっかりと摂り、体力をつけて頂きたい患者さんにはより適しています。

また、美味しく食事を摂るには、季節感も重要な要素です。四季を感じさせてくれる季節の野菜や果物は、安く美味しく栄養価の高い物が多くあります。節句などの行事の時には、それにちなんだ献立を取入れ、年間20回程度の行事食も行っております。これからの季節には土用の丑の日、十五夜などを予定しております。季節を感じながら美味しく召し上がって頂きたいと思っております。



「うなぎの蒲焼」

## 診療科の紹介（1）

## 内科

副院長 まる た さかえ  
丸 田 栄

現在内科では、消化器系、呼吸器系、内分泌・代謝系の臓器別専門医を擁し、その高い医療技能を生かしたEBM（医学的根拠に基づき推奨される医療）に拠る病者の視点に立つ診療に努めています。多彩な症状や難しい病態の診療では、神経内科、循環器内科、群馬大学病院医師による血液内科や院内外の他診療科の先生方とも協力して、総合的な診療体制に基づく一人一人に個別化した医療を実施しています。以下に専門領域について診療内容の概要を記述します。

### 消化器系診療

#### 1) 肝臓病チーム

B型、C型中心のウイルス性、自己免疫性、薬剤性等の肝臓病の治療、各種肝臓腫瘍の経動脈的薬物治療、肝不全治療、経内視鏡的食道静脈瘤療法などを行っています。

#### 2) 胆のう・すい臓チーム

胆道（肝内胆管、総胆管、胆のう）、すい臓（すい臓、すい管）を対象に、各種画像診断、経内視鏡的検査・治療、各種悪性腫瘍薬物治療などを行っています。

#### 3) 胃腸チーム

食道、胃、小腸、大腸の潰瘍、ポリープ、悪性腫瘍の診断・薬物治療とさらに経内視鏡的切除治療などを行っています。

### 呼吸器系診療

慢性閉塞性肺疾患、間質性肺炎、気管支喘息、様々な感染性肺炎、悪性腫瘍などの診断と治療を行っています。最近では、在宅酸素療法や経鼻人工呼吸器療法など、慢性呼吸不全病態でのQOL（生活の質）の改善を実現しています。

### 内分泌・代謝系診療

下垂体、甲状腺、副甲状腺、副腎疾患、電解質異常症や、糖尿病、高脂血症、肥満症などの生活習慣病の診断と治療を行っています。

以上の専門性を生かした内科診療を効率よく進めるため、まずは一般内科を初診受付していただき、診察・検査の結果を確認後、専門医への紹介受診制を中心に行っています。迷わず一般内科を受診ください。

しかし、今日の医療行政は大きく変革し、在宅医療の充実と入院治療の適正化を求めています。当科では急性期病院診療を取り入れ、慢性疾患治療での他医療機関との連携や入院診療の見直しが急務です。単なる長期療養は困難であり、患者さんへの病状説明を大切に、治療への自主的参加を求め、信頼される早期診断、安心の短期治療を実現して、当地域での中核病院としての責務を果たしたいと思います。また本院は臨床研修病院であり、指導医と共に研修医が患者さんの元で熱心に診療に励んでいます。共々ご声援を宜しくお願いいたします。